
認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク
評価事業報告書 2024

2025年7月

トリトンアーツ評価委員会

トリトンアーツ評価委員会の第8期、2年度目の評価報告書をまとめることができました。昨年度と同じように、評価項目ごとに各委員から「評価できる点」「改善すべき点／今後の取り組みが期待される点」を示してもらい、それに基づいた意見交換を行って取りまとめたものです。

具体的な評価結果は「第Ⅱ部 2.評価委員会による評価」のとおりで、そこにも上記二つの視点に分けて代表的なコメントを記載しましたが、「改善すべき点／今後の取り組みが期待される点」は、いずれも評価委員会で各委員から「あえて挙げるとすると」という注釈付で示されたものでした。それだけ、トリトン・アーツ・ネットワークの事業や運営全体について、各委員は高く評価している、ということをごここに記しておきたいと思います。

今年、私自身が視察させていただいた事業のうち、特に印象に残ったものが二つありました。ひとつは、ウェールズ・アカデミーの公開レッスン（2月10日開催）で、多くの応募者から選ばれたアカデミー生が受けるウェールズ弦楽四重奏団のレッスンを公開するものでした。レッスンを受けたのはクァルテット・リコルドの4名、指導にあたったのはチェロの富岡廉太郎さんとヴィオラの横溝耕一さん、曲はベートーヴェンの『弦楽四重奏曲 第5番 イ長調 Op.18-5』でした。

富岡さんや横溝さんのアドバイスで演奏がガラッと変わったり、「良くなったね」と言われた場面でも私には何が良くなったのかさっぱりわからなかったり。演奏とは楽譜に残された作曲家の楽曲や思いを、その都度、新たに創造する行為なのだということをつぶさに体験することができました。こうした若手演奏家の育成はトリトン・アーツ・ネットワークが大切にしている活動の一つだということは承知していましたが、驚いたのは、それを公開しているということと、熱心な参加者がいる、ということでした。中には楽譜を持参して音符を追いながら音楽の生まれる瞬間に聴き入っている方もいました。

レッスンの公開は、指導者、受講者両方の理解があつてのことだと思いますが、トリトン・アーツ・ネットワークはそこまでして「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」というミッションを達成しようとしているのだ、ということに、思わず敬意を抱いてしまいました。

もう一つ印象に残ったのは、ライフサイクルコンサート（2月4日開催）でした。第一生命ホールのロビーで、ピアニストの金子三勇士さんが行った「子どもといっしょにクラシック～0-3才児のためのコンサート」です。参加したのは、お母さんやお父さんと子どもたち50組ほどだったでしょうか。文字通り、よちよち歩きの子もたちが、ロビーの中を歩き回る中、金子さんが力強い演奏を始めて静かになったかと思うと、すぐによちよち歩きを始める、という繰り返しでした。その間、親御さんたちは、わが子をベビーカーに連れ戻したり、あやしたりしながら、金子さんのピアノに聴き入っていました。

その光景を見て、これは子どもたち向けのコンサートでありながら、子育てに忙殺されるご両親にとって、生の演奏を聴ける貴重な機会になっている、ということを実感しました。3才児まではロビーですが、4才児になるとホールでの「子どもといっしょにクラシック」の演奏会に入場できるようになります。まさしくライフサイクルに応じたプログラムが整えられているのです。日本は少子化が止まりま

せんが、第一生命ホールでは、子育てを音楽から応援する環境を提供することで、少子化と向き合っているのではないかと。そんなことを考えさせられる事業でした。

そうした多様な音楽事業を支えている第一生命保険の姿勢にも心動かされるものがあります。第一生命ホールと施設には企業名がついていますが、トリトン・アーツ・ネットワークには企業名がありません。そこには、より公益的な活動を推進するためには、民間のNPOに託すのが相応しい、という大きな決断があったに違いありません。

ESG投資やSDGsなどに象徴されるように、民間企業には、ますます社会に対して何を提供しているか、が問われるようになっていますが、まさしく第一生命保険のその問いに対する答えのひとつがトリトン・アーツ・ネットワークの活動ではないかと思うのです。評価委員会では、そうした第一生命保険の支援を高く評価しつつ、第一生命保険とトリトン・アーツ・ネットワークがこれからの中長期のビジョンを共有して、さらに意義のある事業や取り組みを展開してほしい、というご意見もありました。

トリトン・アーツ・ネットワークの多彩な事業を視察、評価させていただくことは、私たち評価委員にとっても大きな学びの機会となっています。最後になりますが、そうした貴重な機会をご提供いただいたトリトン・アーツ・ネットワークの皆さま、お忙しい中、献身的に評価に取り組んでくださった評価委員会の委員の皆さまに心からお礼申し上げますとともに、この報告書が、トリトン・アーツ・ネットワークや第一生命ホールの今後の事業や運営に有効に活用されることを願っています。

2025年5月

第8期トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会

委員長 吉本光宏

第 I 部 トリトンアーツ事業への評価について

2024 年度はトリトンアーツ評価委員会の第 8 期 2 年度目であり、2025 年 4 月にトリトンアーツ会議室で実施した 2 回の評価委員会を中心にして、トリトンアーツの上記年度の活動を評価した。

認定 NPO 法人トリトン・アーツ・ネットワーク 第 8 期評価委員会

1. 委員会メンバー

委員長 吉本 光宏（文化commons研究所 代表）
委員 新井 鷗子（横浜みなとみらいホール 館長）
委員 齊藤 望（企業メセナ協議会 プログラム・オフィサー）
委員 田中 真実（認定 NPO 法人 ST スポット横浜 副理事長・事務局長）
委員 丹羽 徹（日本クラシック音楽事業協会 常任理事・事務局長）
事務局 山田 千尋（東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科修士 2 年）
オブザーバー 黒主 慎享（第一生命保険 総務部サステナビリティ推進課ラインマネジャー）
オブザーバー 田畑 菜穂（第一生命保険 総務部サステナビリティ推進課アシスタントマネジャー）

2. 2024 年度評価委員会開催記録

第 1 回 2025 年 4 月 1 日(火) 13:00~15:00

第 2 回 同年 4 月 23 日(水) 10:00~12:00

いずれも、トリトンアーツ会議室にて開催

3. 第 8 期評価活動（第 2 年次）概要

第 2 年次の評価は、トリトンアーツから提出された事業データ（主催・共催公演一覧、コミュニティ活動一覧、ファンドレイジング状況、2024 年度事業計画振返り、決算書など）、そして当該年度に各委員が視察した公演・活動に対する所見にもとづき、下記 2 回の委員会、および必要に応じて行われた電子メールでの意見交換を経て取りまとめた。

第 1 回委員会では、トリトンアーツからの当該年度の事業全般に関する報告および質疑応答を通じて、メンバー全員で今年度評価を行うための基本的な情報共有を行った。また、各委員が視察した公演・活動に関するコメントを共有するとともに、評価項目、評価方法については、第 1 年次と同様とすることとなった。

第 2 回委員会では、2024 年度事業計画の振返りに関する報告を受けるとともに、各委員が評価項目ごとの評価を持ち寄り、意見交換を行った。必要に応じてトリトンアーツに対して事実関係の確認や補足情報の提供を求めた上で、本年度の評価を総括した。

以下に示す第 II 部の部分は、これらの委員会での検討結果をとりまとめ、後日に委員の確認を経て確定したものである。

第Ⅱ部 2024年度活動評価

1. トリトンアーツによる評価

2024年度はコロナ禍以降初めて、晴れて年間を通してガイドラインなどの制約なく事業を実施できた年度となりました。コロナ禍では演奏家と聴衆の距離（当初は演奏家同士の距離まで！）を取るものが求められましたが、今はまた、オペラでは客席から登場人物が現れ、子ども向けのコンサートでは客席もステージの音楽とあわせて歌い、赤ちゃん向けのロビーコンサートではピアノを弾く演奏者の近くまで来て聴くことができるようになったのです。本来あるべき自然な形でコミュニケーションを取りながら、音楽を楽しむことができるようになったのは本当にうれしいことでした。コロナ禍を乗り越えたことで、ビジョン「音楽でつながり、音楽とともに生きる社会の実現」、ミッション「音楽によるコミュニティの活性化——音楽の楽しさを分かち合い、心を豊かにする」は、また新たな意味を持って私たちを導いてくれているように感じます。活動を支え続けてくださる会員、寄付者、サポーターの皆さまには、あらためて心より感謝申し上げます。

ホール公演事業

第一生命ホール主催公演は21公演、共催公演は5公演を実施しました。主催公演のうち完売が6公演、またほとんどの公演でチケット購入目標を達成し、多くのお客さまにシリーズ毎の目的やねらいに沿って制作した第一生命ホールならではの公演を楽しんでいただきました。

ホール専属の「トリトン晴れた海のオーケストラ（晴れオケ）」（コンサートマスター：矢部達哉）は、2巡目のベートーヴェン交響曲全曲演奏会を実施中、2024年度は初の地方公演としてキッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）公演も実現、ブランドとして定着しつつあります。地元では、新しく第一生命ホールの近くの晴海フラッグ（東京オリパラ選手村跡地）にオープンした中央区立晴海地域交流センター「はるみらい」で初の無料ロビーコンサートを実施、またコロナ禍後初めて公開リハーサルも再開し、地域のお客さまに愛されるオーケストラとなるべく活動しています。

ピアニスト小山実稚恵による「小山実稚恵の室内楽・新章」2年目は、矢部達哉（ヴァイオリン）と宮田大（チェロ）とのトリオでシューベルトのピアノ三重奏曲2曲という重量級プログラムを実施、また宮田大は自身とチェロの多様性を追求する「Dai-versity」シリーズ3年目として琉球舞踊とバレエと共演、いずれも完売となりました。数年間かけてのシリーズだからこそ演奏家も意欲的に挑戦できる企画です。

「室内楽ホール de オペラ」では、2年前に延期となった「岩田達宗プロデュース～佐藤美枝子の『ルチア』」は稽古を重ね、満席の中、一度限りの迫力ある舞台を実現させることができました。

ホール開館当初からの「クアルテット・ウィークエンド（SQW）」では、ボルドー国際弦楽四重奏コンクールの優勝団体として招聘したレオンコロ弦楽四重奏団が、第一生命ホール他、横浜、大阪、滋賀で公演。新聞、雑誌でもインタビューや演奏会評が取り上げられ、「音楽の友」誌で「期待の新人2024」第1位に選ばれるなど話題になり、公演はNHK-BSでも放送されました。また、ドイツのヘンシェル・クアルテットが17年ぶりに出演した他、日本を代表する常設の弦楽四重奏団クアルテット・エクセルシオが若手演奏家と共演する企画には、ほのカルテットが登場。クアルテット・インテグラは、3年企画の最終年を終えて次の企画に期待が膨らみます。ウェールズ弦楽四重奏団が若手の室内楽奏者、弦楽四重奏団を育成する「ウェールズ・アカデミー」は3年目、過去の受講生たちもプロオーケストラ奏者やソリスト、室内楽奏者として活躍しています。

「ごほうびクラシック」は、村治佳織（ギター）がほのカルテットと共演、箏のLEOが登場、加未徹（バリトン）がミニオペラを上演するなど、シリーズを通して様々な内容をお贈りしました。恒例となった若手ピアニストが集う「ピアノ・オールスターズIII」は、U25 券で多くの若いお客さまにご来場いただきました。また、三浦一馬（バンドネオン）率いる「東京グランド・ソロイスト（TGS）」は早々に完売、2025年度は2日間連続公演を予定しています。

「子どもといっしょにクラシック」では、ロビーでの「0～3歳児のためのコンサート」を年3回、ホールで4歳以上入場可とするコンサートを年3回実施（うち1回は日本音楽集団との共催）。「クリスマス・オーケストラ・コンサート」は1日3回公演がほぼ完売、「音楽と絵本コンサート『おまえうまそうだな』」は2019年の初演後に地方のホールへ何度も企画を提供し上演されており、5年を経ての再演はパワーアップしてお届けできました。

コミュニティ事業

2024年度は51回（オープンハウスを入れて52回）と過去最高の実施回数となりました。数が増えたのは、中央区内中学校でのアウトリーチが始められたこと、2024年1月から入居が始まった晴海フラッグのある晴海西地区での新設区立小学校や地域交流センター、介護施設などでアウトリーチを新たに行ったことが理由です。ホールのすぐ近くに新たにできつつある街で、これからも何ができるか楽しみなところです。新規住民を主な対象としているオープンハウスでも、チケット申込者の約半分が新規来場者の方でした。

小学校のアウトリーチでは、中央区は前述の新設校もあわせて全17校で実施、音楽の先生のご要望を伺って金管五重奏、マリンバ、ピアノ、和楽器体験付きなど様々な内容でアウトリーチを行っています。また、区内唯一の特別支援学級がある中学校の生徒向けにも初めて実施し、ワークショップも含めて一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

介護施設ではコロナ禍を経て5年ぶりに再開できた施設や、初めて晴海フラッグの施設で実施することができました。

中央区と連携した「中央区民カレッジ」では鑑賞をゴールとする講座を初めて年2回実施、「（室内楽ホール de オペラ」とクァルテット・インテグラ）で、新たな層をホールへ呼び込むことができました。

人材育成事業

若手演奏家がアウトリーチを学ぶ「アウトリーチセミナー」には、ウェールズ・アカデミー2期生のクァルテット・カノープスが参加、リハーサルを重ねオープンハウスに出演するとともに、小学校でアウトリーチを実施し、年度末にはロビーコンサートに出演しました。

前年度のアウトリーチセミナーを受講したクァルテット・アベリア（ウェールズ・アカデミー1期生）は、幼稚園、保育園、認定こども園などでアウトリーチを行い、例年同様、東京文化会館が主催する5館（他は東京芸術劇場、サントリーホール、静岡音楽館AOI、トリトンアーツ／第一生命ホール）連携の若手支援コンサートに出演。セミナーやアカデミーを修了した演奏家たちが、活躍の場を広げています。「ウェールズ・アカデミー」のレッスン動画は再生数が多く、公開レッスンにも熱心な聴衆が集まるなど、注目を集めています。

サポーター（ボランティア）活動には、57名が登録。86%が何らかの形で活動（多い方は年間14回！）、実働参加率が高く、自分のペースで活動に参加してくださっています。公演やアウトリーチでのサポートの他、オープンハウスには計47名が参加（プロジェクトサポーター4名、登録サポーター12名、第一生命グループ社員30名、その他1名）、プロジェクトサポーターが中心となって運営ができました。

NPO 組織運営体制

働き方意識改革による生産性向上を掲げ、事務所移転に伴いフリーアドレス化を行うとともに、コスト削減のために新たなチケットシステムの導入を実施しました。また、第一生命グループと同様の福利厚生制度「ベネフィット・ステーション」を10月から採用することで、自己啓発や福利厚生制度の充実を図りました。監事による年2回の定例監査では、特段の指摘事項はありませんでした。

決算の状況

(1) 活動計算書

経常収益 146,772 千円 (2023 年度比 99.7%) 経常費用 141,039 千円 (2023 年度比 95.7%)

当期正味財産増減額 5,732 千円 (2023 年度実績 ▲169 千円)

前期繰越正味財産額 76,569 千円

次期繰越正味財産額 82,301 千円

・収益では、法人会員会費の前期未入金分が今期まとめて入金されたことや、チケット売上高やコミュニティ活動収入が好調であったこと等により、収益全体でほぼ 2023 年度並みの水準となりました。

・費用では、公演制作費において中止公演による減とともに、チケット売上が好調な公演で広告費が抑えられたこと、およびその他経費の圧縮に努めた結果、対予算比で 86.3%となりました。一方で、地域活動制作費は、アウトリーチの実施回数が過去最高だったこと等もあり、対予算比で 102.4%となりました。その他、事務所移転に伴う什器備品購入や廃棄費用などが発生しましたが、費用全体では 2023 年度を下回りました。

・結果として、年度始予算では 305 万円の赤字予想でしたが、573 万円の黒字となりました。

(2) 貸借対照表

資産 110,225 千円 (2023 年度末比 114.6%) 負債 27,923 千円 (2023 年度末比 142.6%)

正味財産合計 82,301 千円 (2023 年度末比 107.5%)

*詳細は別紙財務諸表の活動計算書、貸借対照表、事業別損益の状況、財産目録の通りです。

2. 評価委員会による評価

2.1. 評価の方法と考え方（昨年度から継続）

2024年度における評価は、2023年度と同様の方法を継続して実施した。以下に、その評価方法と考え方を再掲する。

第8期の評価委員会では、過去の評価委員会の評価項目や評価方法を参照し、「ホール公演事業」「コミュニティ事業」「人材育成事業」「NPO組織運営体制」「総括」の5つの区分を設定し、それぞれに設問形式で2～4つの評価項目を設けた。「総括」では、他の4区分を横断する内容（ビジョン・ミッション／広報宣伝／支援者・ファン層の拡大／第一生命ホールとの適切な連携）も含めた総合評価を行うこととした。

また、1年間の実績や成果の良し悪しや目標の達成度合いを判断するランク付け（○△×等）は行わないこととし、「評価できる点」「改善すべき点／今後の取り組みが期待される点」の二つの枠組みを設定して、評価項目ごとに各委員から意見やコメントを出していただいた。

5名の委員それぞれの専門分野、視点に基づいた個々の意見やコメントは多様で、一つひとつに大切にすべきポイントやキーワードが含まれていたことから、評価項目ごとにその傾向を整理した上で、主要なコメントを要約、列記することとした。

それは、1年間の事業や運営の結果の良し悪しを評価するのではなく、成果や課題を再確認し、そこから今後の方向性を考える手立て、ヒントを見出していきたいと考えたためでもある。したがって、以下に記載する内容は、「評価」というより1年間の事業や運営の実績や成果を、評価委員の視点から「検証」したものと考えていただきたい。

2.2. 評価・検証結果

2.2.1. ホール公演事業

今年度の公演事業は、第一生命ホールの規模や地域特性に合わせた企画が実施され、新規顧客の開拓や安定した集客が見られた。チケット売上の目標達成率が高かったものの、多くの層にリーチするため、新たな企画や持続的な券売促進に向けたさらなる取り組みを期待するコメントもあった。

①公演シリーズ・公演ごとのねらい、目的に沿って企画・制作を実施できているか？

[評価できる点]

- 第一生命ホールの規模や特性、地域の属性を踏まえたプログラム構成が的確に設定されており、シリーズごとの目的や対象に即した演奏会が企画されている。
- 小ホールながらも多様なラインナップを安定的に実施しており、ホールのキャパシティを超えたインパクトを発信している。
- 室内楽やホールオペラなどの企画で新規顧客の開拓を実現している。
- 公演ごとの顧客特性を分析し、新たな客層へのアプローチに加えて既存企画のさらなる発展も図られており、新規顧客が50%に達するプログラムもある。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 成熟した企画内容を着実に継続しつつ、マンネリ化を防ぐために新たな企画への挑戦も望まれる。
- ウェールズアカデミーの発展を踏まえ、コア層に向けた有料配信チャンネルの試験的導入など、新たな展開の検討も期待される。
- 晴海地域の若年層増加への対応として、「ごほうびクラシック」等において10～20代向けプログラムをさらに拡充できるとよい。
- 初心者層が公演を選ぶ際の手がかりとなるようなナビゲーションの工夫があると、より多くの観客層にリーチできる可能性がある。
- 公演事業とコミュニティ事業の連携強化が、観客動員にも繋がると考えられる。

②公演別集客目標・チケット売上目標を達成できているか？

[評価できる点]

- 目標の設定が高い中で、達成率が100%を超える公演が大半を占めている。
- 購入履歴の分析や、最後の1枚まで売り切ろうというスタッフの努力が成果に繋がっている。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 法人・個人会員への特典としての招待枠には資金調達上の意義もあり、大きな見直しは難しいが、今後もチケット売り上げとのバランスを見ながら招待枠設定の工夫が期待される。
- 購入履歴の活用やサブスク制の導入、若手演奏家公演の販促、セット券やビギナー向けナビゲーションなど、持続的な券売促進に向けた工夫の余地が残されている。

2.2.2. コミュニティ事業

幅広い対象への多彩なアウトリーチや丁寧なプログラムづくり、地域に根差した活動の広がり、限られた人員でも安定した運営体制を実現している点が高く評価された。一方で、今後のさらなる発展に向けては、体制強化や連携先の育成、中長期的な視点での運営の工夫、第一生命保険との中長期ミッションの共有などを期待するコメントもあった。

①アウトリーチのねらい、目的に沿った確実な実施ができているか？

[評価できる点]

- 保育園から高齢者施設まで幅広い対象に、多彩なアウトリーチを着実に実施しており、件数・内容ともに高く評価できる。

- 対象に応じた丁寧なプログラムが提供されており、参加児童へのアンケートからも高い満足度であることがわかる。
- 中央区内の公立小学校に加え晴海地区への展開も進み、それぞれの特性に応じた演奏家や楽器の選定など、柔軟な対応がなされている。
- 経験を積んだ若手演奏家によるトークや対応力の向上も成果として見られる。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 学校以外の子どもの居場所へのアプローチなど教育環境の変化をふまえた新たな展開が期待される。
- 吹奏楽・オーケストラ部へのクリニック型アウトリーチの実施も検討の余地がある。
- 第一生命保険との継続的な対話を通じて両者の役割を明確にするとともに、中長期のミッションや事業展開の方向性を共有することで、今後の拡がりを期待したい。
- 新たな連携先の発掘など地域全体でのネットワーク構築も期待される。

②連携先や対象の広がりなどによって、より充実したコミュニティ事業が実施できているか？

[評価できる点]

- 中央区内での連携先が拡大しているほか、東京芸術劇場など新たな連携もあり、事業の充実が図られている。
- 晴海地区や新設の中学校・施設への展開、講座回数の増加など、地域密着型の活動が強化されている。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 実施回数や対象先が増加する中で、スタッフの負担やマンパワーの限界も考慮し、連携先の育成やノウハウの蓄積を進めることに加えて、対象先の選定や回数の上限設定など運営面の工夫が求められる。
- 中長期的な目標を設定し、重点的に取り組む地域や施設、対象を明確にしていくことも重要ではないか。
- 地域内の多様な背景や経験を有する人々との関係構築を視野に入れ、ニーズ調査などを通して新たな連携先の開拓が期待される。

③コミュニティ事業を適正かつ円滑に実施するための十分な運営体制が整えられているか？

[評価できる点]

- スタッフやサポーターの熱意と協力体制により、限られた人員でも安定した運営を実現している。

- 複数人での体制が整っており、生徒へのきめ細やかなサポートや、不測の事態への柔軟な対応ができています。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 現在の体制では実施可能な件数や広がりには限界があるため、地域のニーズや第一生命保険の意向も踏まえ、体制強化や人員増加等の方針を検討する必要があります。
- サポーターや受け入れ先との連携がより重要になる中で、組織力を高めるために定期的な担当の入れ替えやマニュアル整備が期待される。

2.2.3. 人材育成事業

若手演奏家の育成については、学びと実践が連動したプログラムが継続され、他ホールとの連携も含めた広がりがあること、専門人材の育成においては、インターンの受け入れやスタッフの研修支援など、環境整備が進められている点、サポーターについては、安定した人数と活動実績を評価する意見が多かった。一方、継続的な人材確保やサポーターのやりがいの創出に向けた工夫を期待するコメントがあった。

①若手演奏家の育成及び活動支援ができていますか？

[評価できる点]

- アウトリーチセミナーやウェールズ・アカデミーでは、学びと実践が連動した育成プログラムが着実に実施されており、若手演奏家の成長に繋がっている。
- 講師と受講生の丁寧なやりとりやスタッフからの助言により、実践的な学びの場が確保されている。
- 他ホールとの連携もしており、業界全体での人材育成への広がりも評価できる。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 若手演奏家の育成はビジョン・ミッションの達成に向けた基盤であり、今後も着実な継続と、複数年での総括や記録による成果の可視化・還元が望まれる。
- 講師に異分野の人材を起用することや、オープンハウスにおける対話・交流の工夫などにより、学びの多様化も期待できるのではないかと。
- 他ホールとの連携を通じて、セミナーやアカデミー修了生の活動の場をより広げる取り組みに引き続き期待したい。

②アートマネジメント専門人材とスタッフの育成が適切に図られているか？

[評価できる点]

- インターンの受け入れ人数は限られているものの、継続的に現場経験の機会を提供しており、アートマネジメント人材の育成に貢献している。
- スタッフに対しては、希望する研修への経費補助、第一生命グループの福利厚生制度を活用したオンライン講座の受講など、スキルアップを支える仕組みが整っている。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- スタッフの負担とのバランスを見ながら、インターンの適切な受け入れ体制を検討し、連携機関の拡充も視野に入れるとよい。
- 研修や講座受講の制度は整備されているが、スタッフの自主性に頼らず研修時間確保のルール化や外部セミナーへの参加機会を設け、スタッフのさらなる専門性向上を支える環境づくりが求められる。

③サポーターの育成は適切に行われているか？

[評価できる点]

- 新規登録者の増加も含めサポーター数は50名以上で安定し、実働数も高い。
- サポーター向け研修交流会を通じて意見交換が行われているほか、オープンハウス事業では、サポーターが積極的にイベント進行や補助を担当し、来場者との交流を深める場となっている。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 引き続きサポーターの人員確保と研修を重ねていく必要がある。
- 退会者が新規登録者を上回っているため、サポーターの役割や活動内容を明確にするほか、サポーター自身にアンケートを取り、特性に応じた施策を検討することが期待される。
- 研修会や交流会の内容を工夫し、サポーターがやりがいを感じる仕事を創出すると共に、オープンハウスのようなイベントの頻度を増やすことが有効ではないか。

2.2.4. NPO 組織運営体制

働き方については、勤怠管理システムの活用やスタッフ全員が有給を取得したこと、財政基盤につ

いては、事業収益の増加や民間協賛金・法人寄付の継続など経営努力が実を結んでいる点を評価する意見が多かった。一方、スタッフの十分な休暇の確保と、公演単位での資金獲得強化やファン層拡大を通じたブランディングの推進などが今後期待される取り組みとして挙げられた。

①コンプライアンス、情報資産保護に関して徹底できているか？

[評価できる点]

- 問題なく適切に運営されている。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- コンプライアンス及び情報資産保護について、引き続き徹底した対応をお願いしたい。

②働き方改革、業務の見直しによる生産性向上が図られているか？

[評価できる点]

- スタッフ全員が5日間の有給休暇を取得し、振替休日の残数も減少するなど、健全な勤務体制が維持されている。
- 勤怠管理システムの活用により、勤務時間や効率化への意識が高まっている。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 振替休日の未取得や労働時間が前年度と横ばいであることを踏まえ、生産性向上に向けた課題整理と働き方の改善が求められる。
- 少数体制による属人化を避け、業務の平準化や十分な休暇取得を通じた職場環境の整備が期待される。

③財政基盤の充実と安定化が図られているか？

[評価できる点]

- チケットや企画料、コミュニティ活動など各種事業収益の増加によって黒字を確保するなど、経常収益が予算を上回り、経営努力の成果が見られる。
- 法人の新規入会や民間協賛金・法人寄付の継続により安定した財政基盤が築かれている。
- 文化庁等の助成金の継続採択やネットワークを活かしたファンドレイズの取り組みが、運営の安定化に寄与している。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 公的補助金や協賛の獲得は厳しいことが予想され、支援者との関係強化や公演単位での資金獲得など、多様なアプローチによる資金確保が期待される。
- ホール来場者に限らず、広くファン層を増やすことで、個人寄付の拡大や第一生命グループ全体のブランディングにも繋がるのではないかと。
- 会員を増やすだけでなく、公演単位での協賛獲得や収益拡大に向けた戦略を引き続き検討してほしい。

④評価委員会との適切な連携が図られているか？

[評価できる点]

- 資料や説明もわかりやすく、定期的な案内や視察に向けた連絡など、丁寧で円滑な連携ができています。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 視察できる公演は限られているため、公演の簡易なレポートを共有してもらえるとよい。
- 評価→ふりかえり→評価のサイクルを深めるため、前年度評価への対応状況を初回会議で共有すると効果的ではないかと。

2.2.5. 総括（ビジョン・ミッション／広報宣伝／支援者・ファン層の拡大／第一生命ホールと適切な連携など）

ビジョン・ミッションに基づいた事業展開や、客層の分析に基づく的確な広報によって着実に集客に結びついている点の評価する意見が多かった。また、若手演奏家の育成や地域との連携など、公共性の高い取り組みが継続されている点も評価された。一方、第一生命ホールとの連携においては、現場運営やルールの特明確化を含め、よりよい関係構築に向けた対応を期待するコメントがあった。

[評価できる点]

- ビジョン・ミッションに基づき、限られたリソースの中で多彩かつ良質な公演・コミュニティ事業を実施している点は高く評価できる。
- 客層の分析や目標値の設定に基づく効果的な広報により、集客面でも成果を上げている。
- 意欲的な企画によって幅広い層へのアプローチをするほか、SNSの活用により演奏家との距離感の近さを演出するなど、初心者も親しみやすい工夫がなされている。

- 若手演奏家の育成に取り組み、さらに地域や多様な機関・施設との連携によって、公共性の高い取り組みが実践されている。
- 第一生命保険の社員への継続的な周知・支援拡大の取り組みを行い、ホールとの連携強化も進められている。

[改善すべき点/今後の取り組みが期待される点]

- 第一生命ホールと現場の運営方針や組織規約について共通認識を持ち、ルール化できるとよいのではないかと。
- ホール主軸の事業の魅力をより伝えるため、晴れオケなどの独立したウェブページの設置やコンテンツ整理による発信強化が望まれる。
- 単年度ごとの評価に加え、シリーズ企画や事業の変遷をアーカイブすることで、活動の意義や継続性が伝わりやすくなるのではないかと。
- 第一生命保険の文化支援に対するミッションと直結した活動としてグループ全体への波及効果があること踏まえ、その理解とさらなる連携強化を進めていただきたい。

< 資料編 >

1. 第一生命グループとの関係およびトリトンアーツ組織図

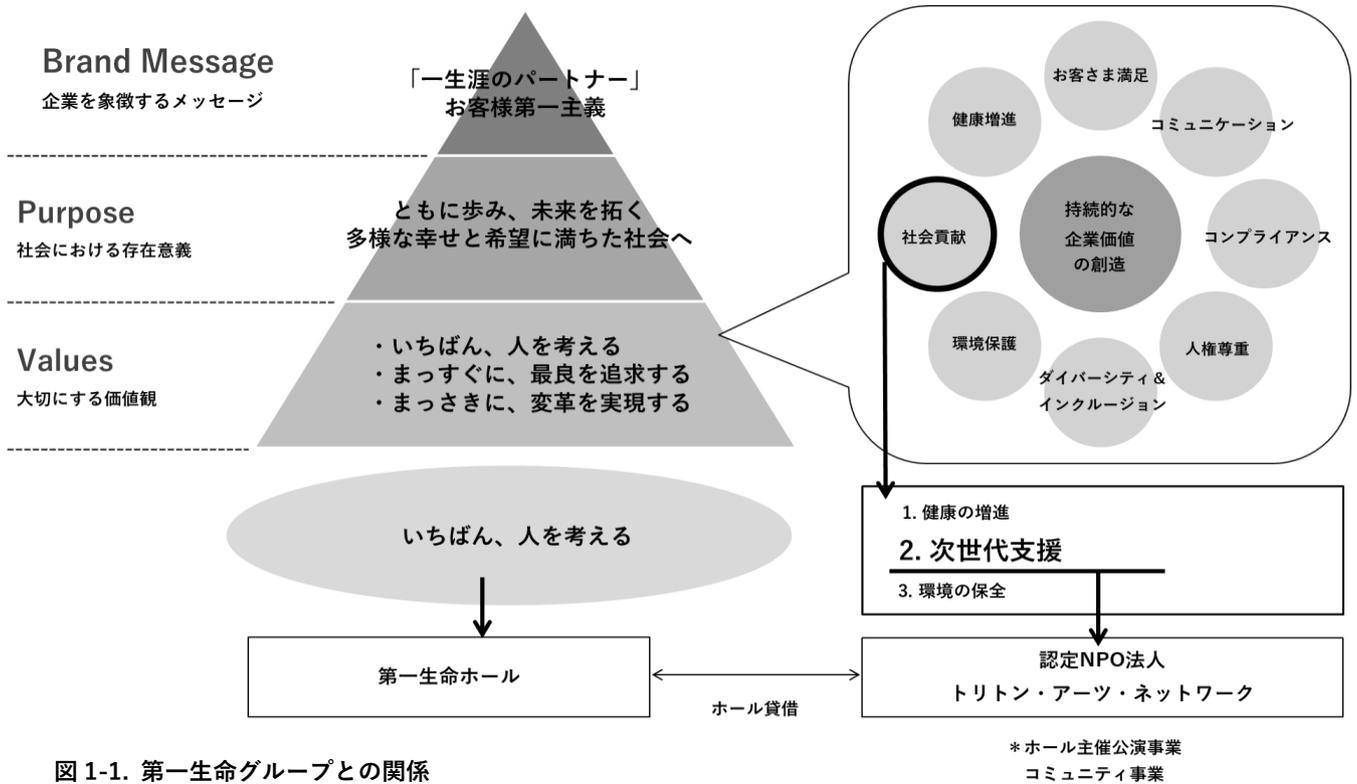


図 1-1. 第一生命グループとの関係

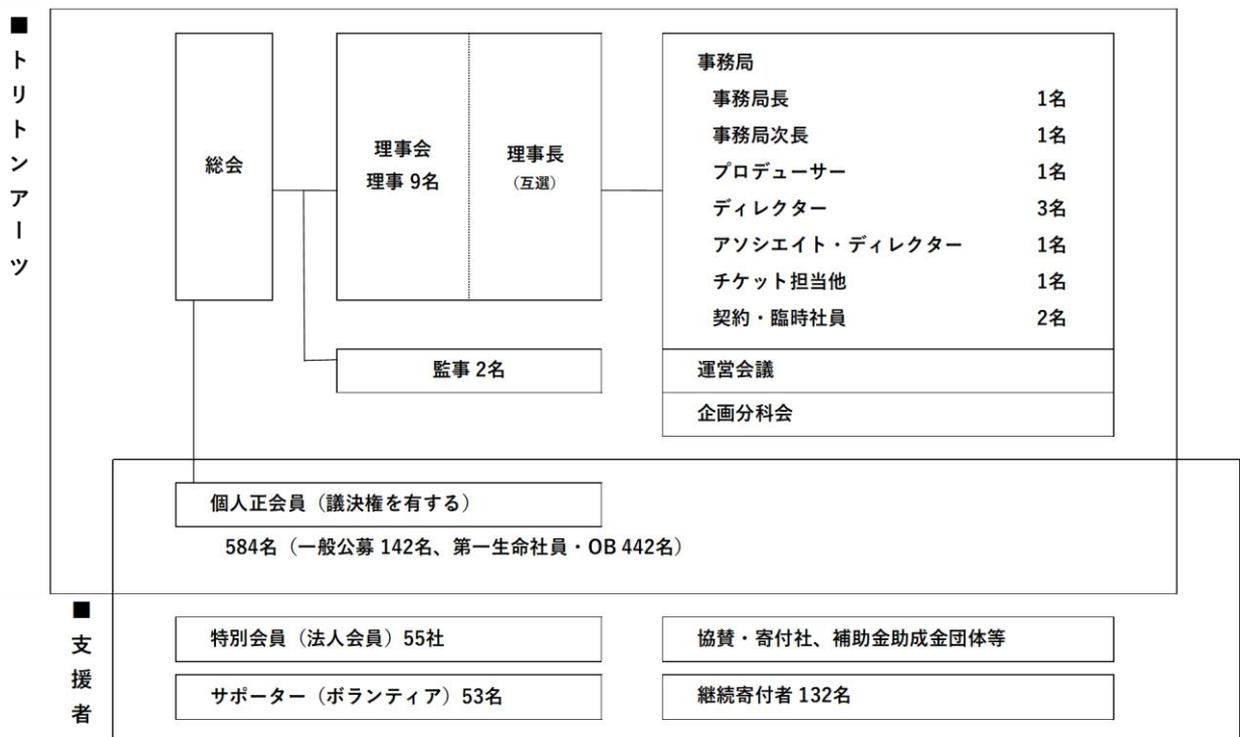


図 1-2. 組織図（数字は 2025 年 3 月末現在）

2. ホール公演事業

公演入場料収入・入場者数

表 2-1. 公演入場料収入、主催・共催公演入場者数

公演入場料収入 (単位：千円)	9,594	9,721	9,091	13,188	21,856	20,479	20,909	23,372	18,322	24,350
年度	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
主催・共催公演入場者数 (招待含む) (単位：人)	10,035	12,074	9,592	9,837	14,501	11,501	12,513	11,403	10,094	13,174
公演入場料収入 (単位：千円)	25,164	25,260	25,102	26,453	24,910	13,470	24,072	38,451	43,539	39,364
年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
主催・共催公演入場者数 (招待含む) (単位：人)	14,721	13,083	14,727	14,818	13,217	5,477	8,355	14,229	16,047	14,755

図 2-1. 公演入場料収入推移

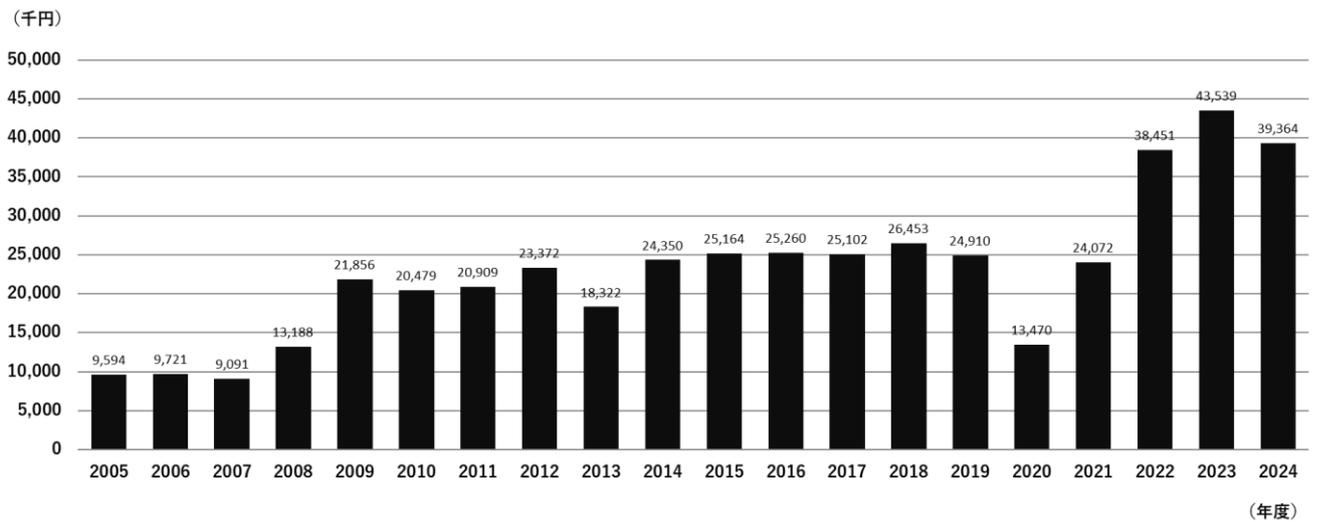
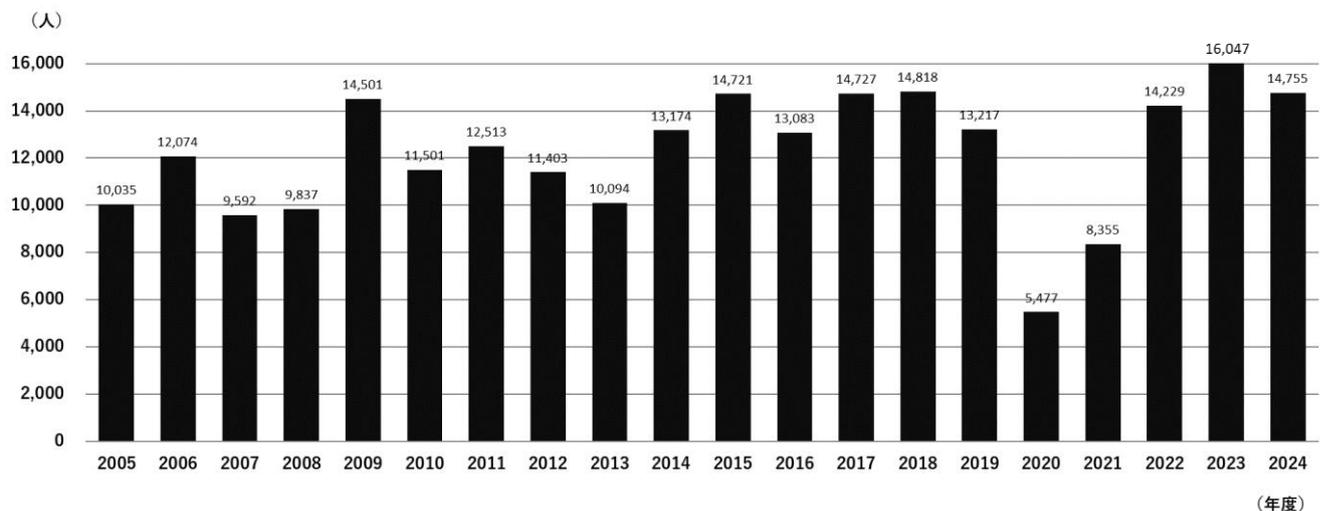


図 2-2. 主催・共催公演入場者数推移



3. コミュニティ事業

事業実施状況

場所・回数	年度																	
	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
小学校	15	12	13	12	13	12	16	16	19	18	17	19	20	14	17	20	18	21
回数	15	12	20	21	24	18	20	19	19	18	18	20	20	14	17	23	19	22
幼稚園、中学校等	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6	6	7	12	
回数	3	5	2	3	4	4	5	4	6	6	6	6	6	6	6	7	13	
病院・介護施設	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	5	2	2	3	5	5
回数	4	7	4	3	1	2	2	2	4	5	5	5	6	2	2	3	5	5
その他	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4	8	12	8	7
回数	5	4	4	3	2	3	4	3	2	2	8	14	9	4	10	14	8	11
実施場所数計	27	28	23	21	20	21	27	25	31	31	36	44	40	26	33	41	38	45
実施回数計	27	28	30	30	31	27	31	28	31	31	37	45	41	26	35	46	39	51
協力企画	2	2	2	4	7	4	3	3	2	2	6	5	2	0	4	6	6	5

表 3-1. アウトリーチ実施場所・実施回数

図 3-1. アウトリーチ実施場所推移

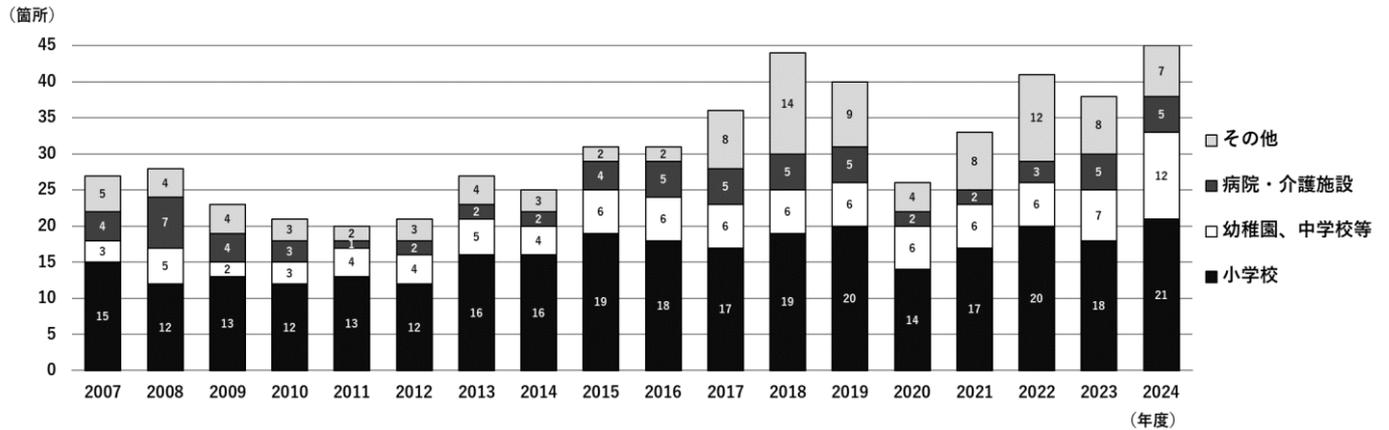
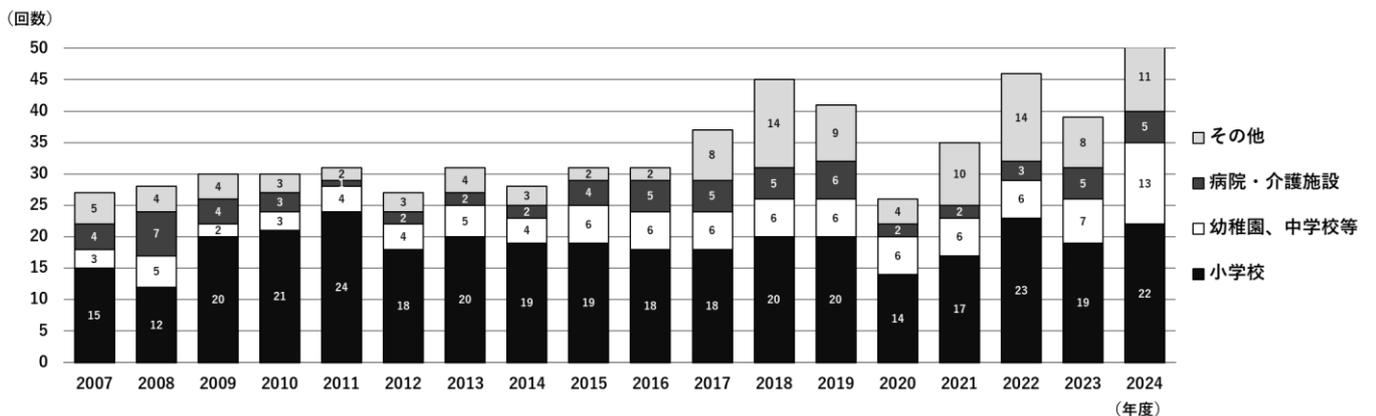


図 3-2. アウトリーチ実施回数推移



4. 人材育成事業

サポーター状況（2025年3月31日時点）

表・図 4-1. サポーター数概要

	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
サポーター数	84	77	68	69	58	61	73	63	73	64	72	72	77	75	76	69	63	55	53
うち中央区民	19	20	17	23	20	20	24	21	24	22	17	21	20	16	19	20	16	17	16
実働数		35	60	62	58	61	73	63	61	52	58	70	63	60	4	31	40	50	45

(単位：人)

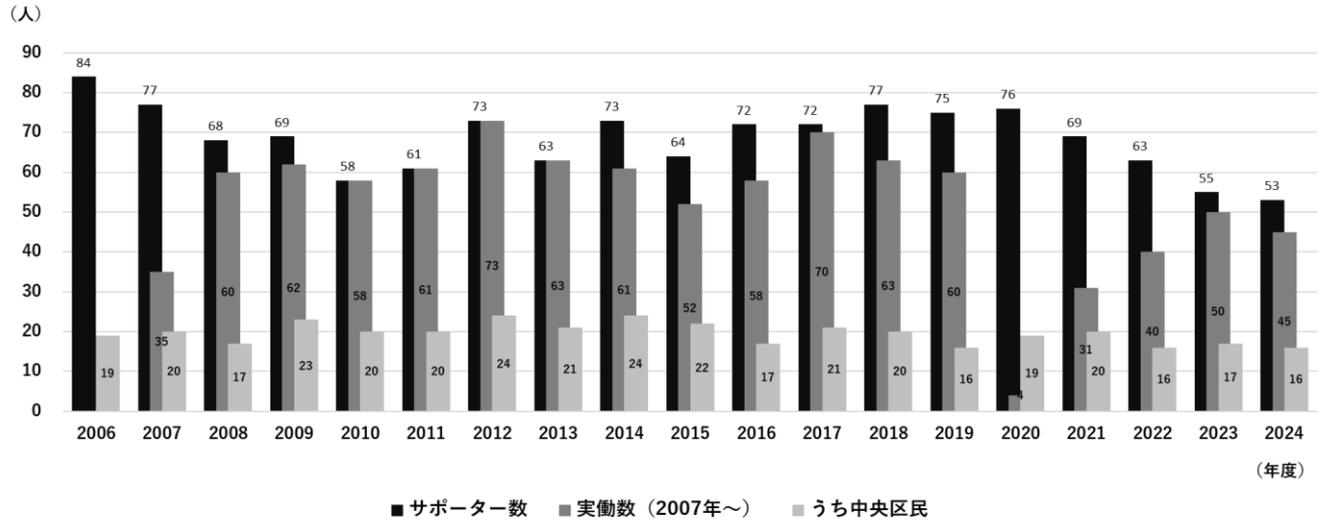
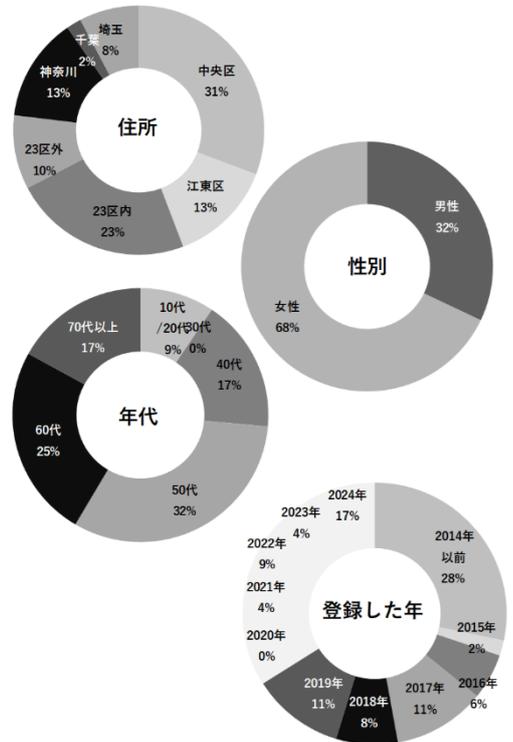


表 4-2. サポーター数推移・属性

	年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
(単位：人)	サポーター数	73	64	72	72	77	75	76	69	63	55	53
住所	中央区	24	22	17	21	20	16	19	20	16	17	16
	中央区外	49										
	江東区		8	8	11	11	12	12	9	7	6	7
	23区内		16	21	20	26	23	22	22	18	13	12
	23区外		6	6	2	1	4	4	4	7	7	5
	神奈川		6	10	8	11	11	11	9	8	6	7
	千葉		3	7	5	4	4	4	2	2	1	1
	埼玉		2	1	3	3	4	4	2	3	4	4
	茨城		1	2	2	1	0	0	1	1	0	0
静岡						1					0	0
性別	男性	19	13	18	15	15	17	18	16	16	17	17
	女性	54	51	54	57	62	58	58	53	47	38	36
年代	10代/20代		7	16	13	19	10	8	7	11	6	5
	30代		3	5	3	4	8	7	5	2	1	0
	40代		14	15	17	15	9	13	12	9	10	9
	50代		10	10	11	12	20	20	19	15	11	17
	60代		18	16	15	15	14	15	11	13	15	13
	70代以上		9	10	13	12	14	13	15	13	12	9
不明		3										
登録した年	2014年以前		36	28	23	20	20	18	21	21	18	15
	2015年		14	11	8	7	5	5	3	1	1	1
	2016年		14	8	8	5	4	4	5	5	3	3
	2017年			25	17	12	7	7	10	8	8	6
	2018年				16	15	10	10	7	6	5	4
	2019年					18	11	9	10	7	7	6
	2020年						18	18	5	1	0	0
	2021年							5	8	7	2	2
	2022年								7	7	7	5
	2023年										4	2
	2024年											9
新規登録	新規登録	20	13	25	16	18	18	5	8	7	4	4
退会状況	退会	10	22	17	16	13	20	4	15	13	12	12

図 4-2. 2024 年度サポーター属性



5. NPO ガバナンス

個人会員・特別会員（法人会員）・寄付等状況

表 5-1. 会員別年会費区分

個人正会員		1口 1万円
特別会員（法人会員）	エステルハージ・サークル会員	1口 10万円（5口以上）
	ラズモフスキー・サークル会員	1口 10万円（2口以上～4口以下）

表 5-2. 会員状況・助成先・協賛先推移

年度 分類		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
個人会員 (単位:名)		790	747	710	765	723	683	650	657	671	745	736	733	716	682	645	618	612	584
個人会費額 (単位:千円)		7,990	7,560	7,310	7,730	7,460	7,410	6,510	6,650	6,840	7,550	7,530	7,420	7,360	7,050	6,720	6,430	6,330	6,190
個人会員 内訳 (単位:口)	第一生命	486	458	447	516	502	481	455	463	484	567	563	566	554	524	499	468	460	442
	その他	304	289	263	249	221	202	195	194	187	178	173	167	162	158	146	150	152	142
年度 分類		2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
法人会員 (単位:社)		31	30	41	45	44	44	43	44	44	45	46	52	53	55	54	54	55	55
法人会費額 (単位:千円)		10,800	9,900	16,800	19,900	20,800	20,900	21,400	21,900	22,200	22,200	20,100	24,600	23,800	23,400	22,800	19,700	23,000	29,000
助成件数 (単位:件)		8	4	7	6	9	4	3	2	2	3	3	5	3	4	4	5	4	3
助成金額 (単位:千円)		11,018	6,034	10,795	6,649	14,262	10,048	9,148	9,103	7,515	5,670	8,560	10,560	9,879	11,655	12,012	11,501	7,809	4,614
協賛・寄付社件数 (単位:件)		3	3	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	4	7	6
協賛・寄付金額 (単位:千円)		61,170	65,730	69,801	55,500	50,600	48,500	48,600	48,800	50,000	53,750	50,450	49,304	51,604	50,979	54,230	54,104	59,004	58,184
個人寄付者 ※内諾者含む申込ベース (単位:名)							153	207	200	201	198	186	180	175	291	170	183	161	142
個人寄付金額 (単位:千円)							28	1,329	1,337	1,440	2,334	2,646	1,869	2,429	3,847	2,565	4,634	3,369	3,012

図 5-1. 個人会員数推移・内訳

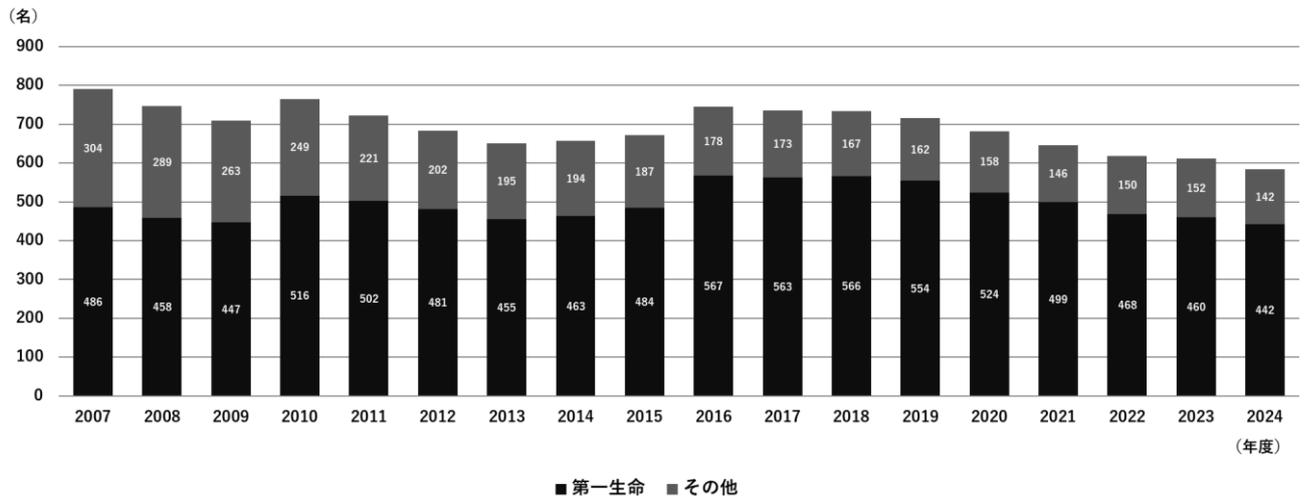


図 5-2. 法人会員数推移

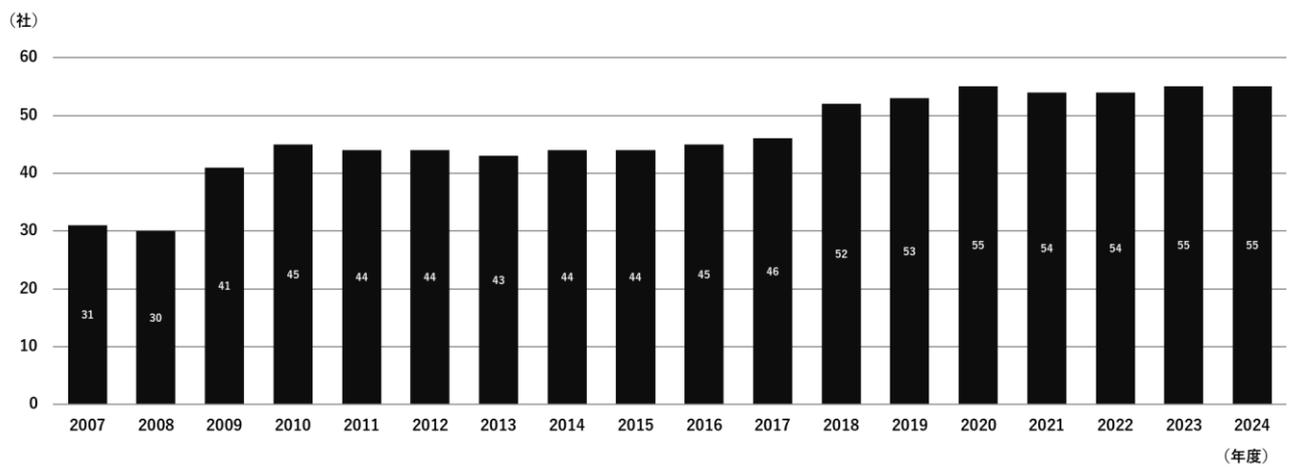
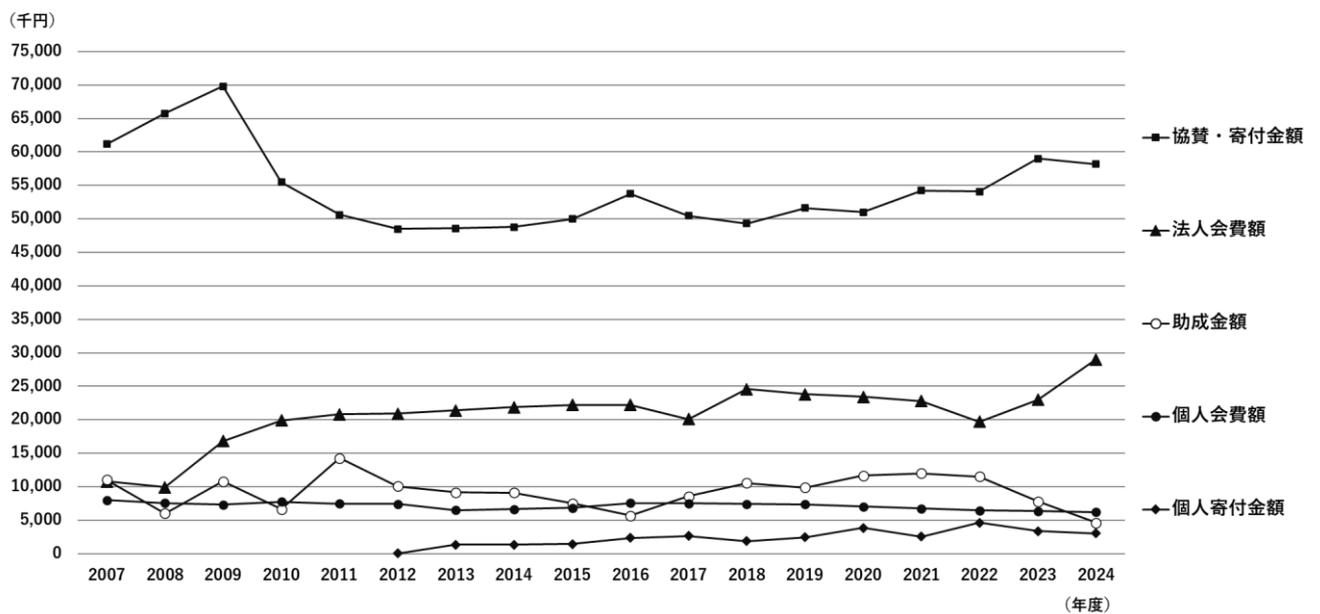


図 5-3. 会費・助成金・寄付金額推移



6. 2024 年度トリトンアーツ主催公演における顧客分析抜粋

◎ 本データは、主にトリトンアーツ主催公演のトリトンアーツ・チケットデスクでのチケット購入者を対象に集計を実施。各プレイガイドでの購入者は集計対象には含まれていない。
2024年度対象公演のシリーズ別一覧は右図のとおり。

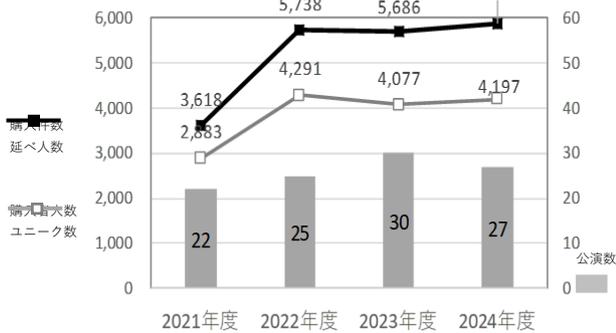
◎ 集計方法

[購入公演数] ⇒ 購入者人数（ユニーク数）で集計
その他 ⇒ 購入件数（延べ人数）で集計

◎ 「購入履歴無」の購入者＝初購入者
「購入履歴有」の購入者（2回目以降）＝リピーター と定義

◎ 顧客の性別・年齢はオンライン会員登録をしている顧客のみ集計（電話・来社予約等では性別・年齢情報は未確認。）

◎ 集計対象



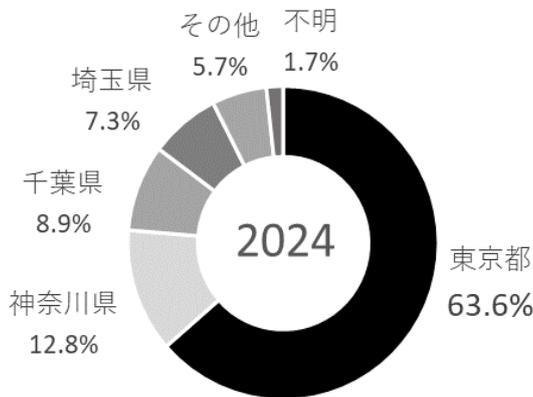
◎2024年度顧客分析対象公演

SQW（クアルテット・ウィークエンド・シリーズ）		5公演
1	4/27（土）	レオンコロ弦楽四重奏団
2	9/23（月祝）	ヘンシエル・クアルテット
3	2025/1/11（土）	クアルテット・インテグラ
4	2025/3/1（土）	クアルテット・エクセルシオ×ほのカルテット
5	2025/3/9（日）	ウェールズ弦楽四重奏団～ウェールズ・アカデミー ガラ・コンサート
ウィークエンドコンサート		6公演
1	7/6（土）	室内楽ホールdeオペラ 佐藤美枝子の「ルチア」
2	7/7（日）	三浦一馬 東京グランド・ソロイスツ 第8回演奏会
3	9/28（土）	トリトン晴れた海のオーケストラ第15回演奏会
4	2025/1/18（土）	トリトン晴れた海のオーケストラ第16回演奏会
5	2025/2/15（土）	小山実稚恵の室内楽・新章 第2回 小山実稚恵&矢部達哉&宮田大
6	2025/3/29（土）	宮田大 Dai-versity 第3回 舞踊と伝統
ごほうびクラシック		5公演
1	5/5（日）	第9回 【昼の部】 村治佳織ギター・リサイタル
2	5/5（日）	【夜の部】 村治佳織&ほのカルテット
3	6/22（土）	第10回 LEO 箏リサイタル
4	11/16（土）	第11回 加未徹 バリトン・リサイタル
5	12/5（日）	第12回 ピアノ・オールスターズIII
子どもといっしょにクラシック		5公演
1	9/14（土）	和楽器で「音楽と絵本」コンサート（共催）
2	12/7（土）	クリスマス・オーケストラ・コンサート(1回目)
3	12/7（土）	クリスマス・オーケストラ・コンサート(2回目)
4	12/7（土）	クリスマス・オーケストラ・コンサート(3回目)
5	2025/3/15（土）	音楽と絵本コンサート『おまえうまそうだな』
ロビーでの乳幼児向けコンサート		3公演（計16回公演）
1	6/11（火）12（水）	第42回 0～3歳児のためのコンサート(6回公演)
2	10/16（水）17（木）	第43回 0～3歳児のためのコンサート(6回公演)
3	2025/2/4（火）5（水）	第44回 0～3歳児のためのコンサート(4回公演)

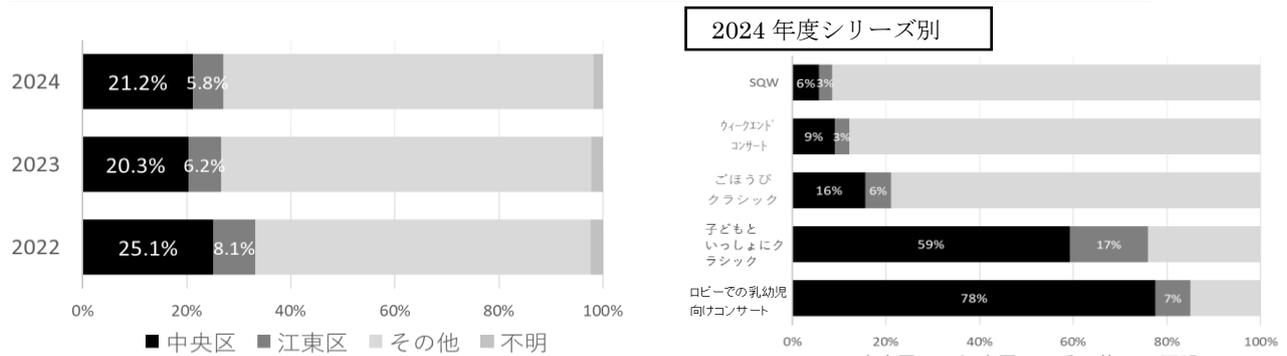
※1 ロビーでの乳幼児向けコンサートは各2日公演、クリスマス・オーケストラ・コンサートは3回公演
和楽器で「音楽と絵本」コンサートは、2回公演を1回にまとめて集計

※2 共催公演(4公演)は、集計対象外

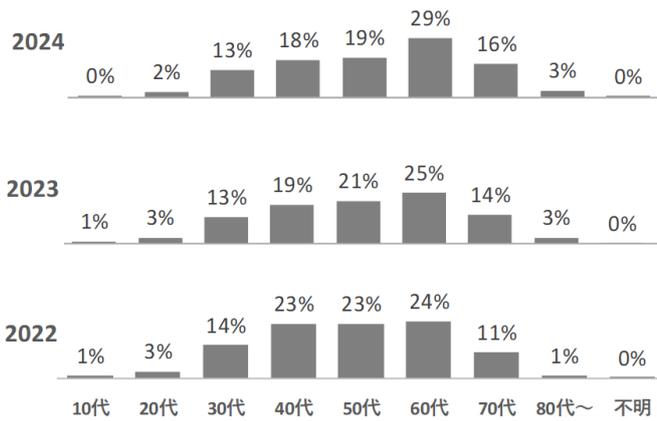
チケット購入者の居住地（オンライン予約&Tel・来社他）



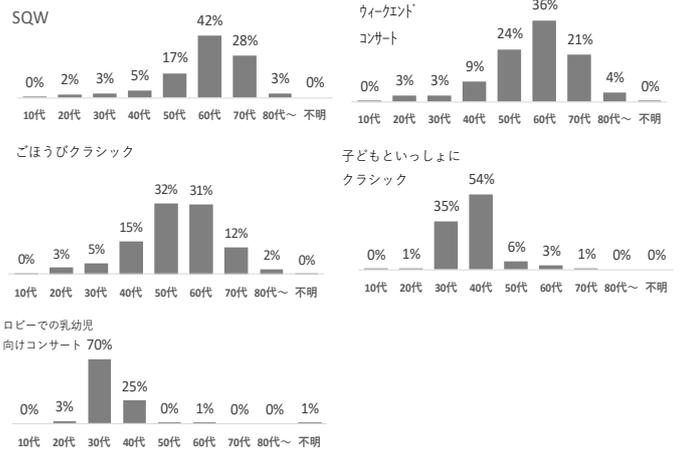
チケット購入者の居住地（中央区・江東区が占める割合）（オンライン予約&Tel・来社他）



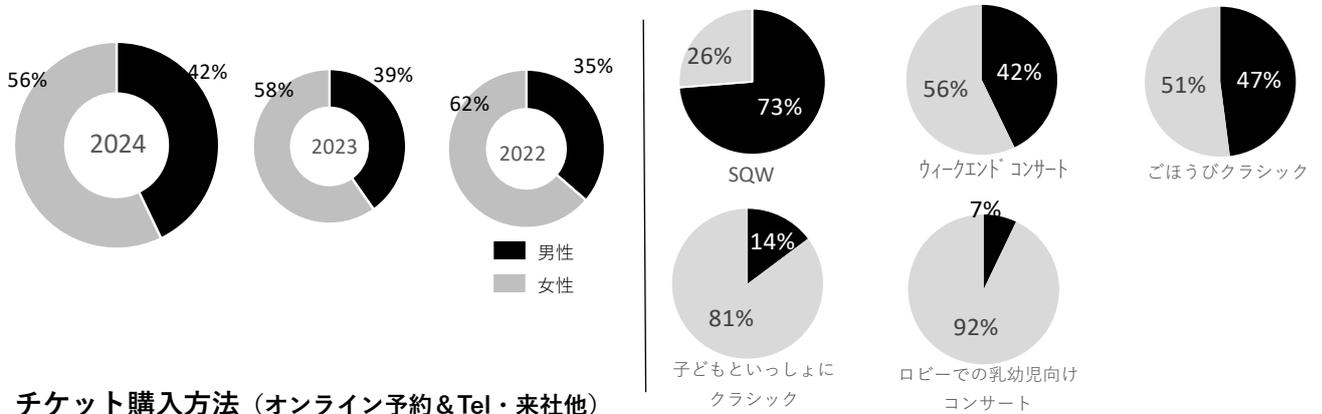
チケット購入者の年代 (オンライン予約)



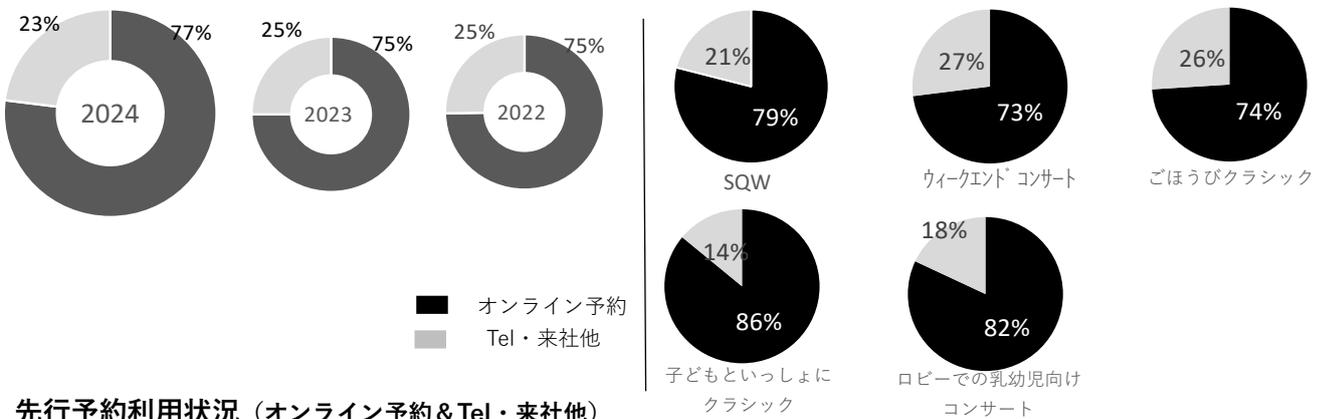
2024 年度シリーズ別



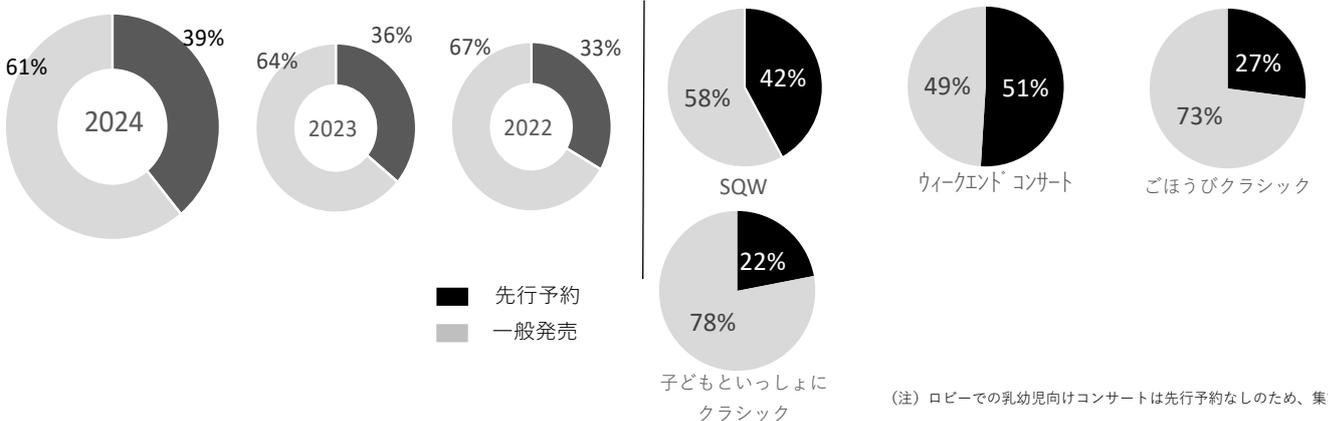
チケット購入者の男女比 (オンライン予約) ※不明 (未回答) があるため、合計 100% とならない場合もある



チケット購入方法 (オンライン予約 & Tel・来社他)

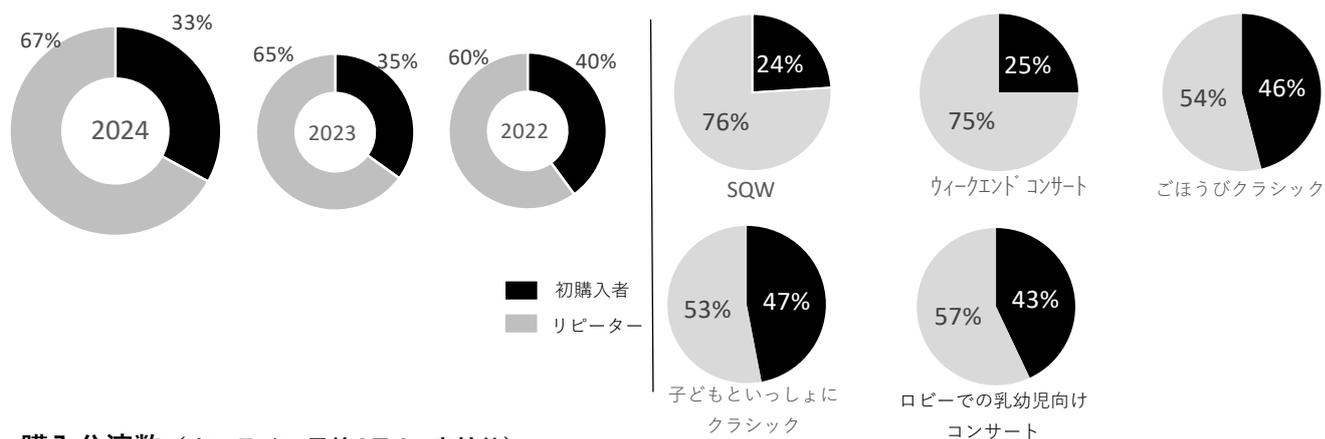


先行予約利用状況 (オンライン予約 & Tel・来社他)

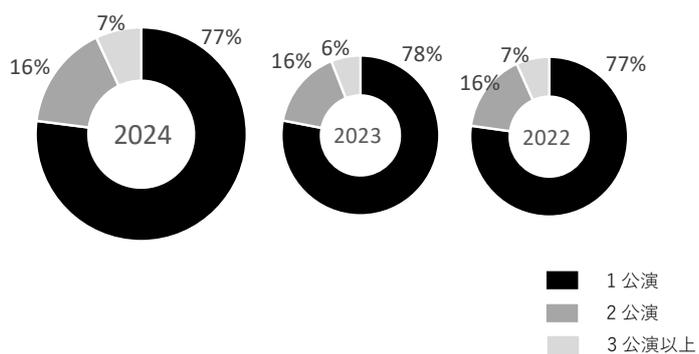


(注) ロビーでの乳幼児向けコンサートは先行予約なしのため、集計外

初購入者・リピーターの割合（オンライン予約&Tel・来社他）



購入公演数（オンライン予約&Tel・来社他）



（出典：トリトンアーツ事務局作成資料）

認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク 2024 年度評価事業報告書
認定特定非営利活動法人トリトン・アーツ・ネットワーク評価委員会編

発行 2025 年 7 月

認定特定非営利活動法人 トリトン・アーツ・ネットワーク

〒104-6005 東京都中央区晴海 1-8-10

晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーX棟 5階

TEL : 03-3532-5701 FAX : 03-3532-57

URL : <https://www.triton-arts.net/>
